

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20760426

研究課題名 (和文) 高等教育からみる近代建築学の成立に関する史的研究

研究課題名 (英文) Research about process of architectonics at the Meiji era considered from higher education

研究代表者

角田 真弓 (TSUNODA MAYUMI)

東京大学・大学院工学系研究科・技術専門職員

研究者番号：20396758

研究分野：建築史

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：工学史、建築教育、工学教育、美術教育、図学、模写、工部大学校、工科大学

1. 研究計画の概要

(1)本研究の目的は、工学教育確立期より発達期における建築教育の実態を探ることで、工学および建築の認識、学の成立を解明することにある。

日本における工学高等教育は、明治6年に開学した工学寮(明治10年より工部大学校)を出発点とし、後を引き継ぐ帝国大学工科大学へと受け継がれ、その後に設立された京都帝国大学を始め、多くの高等教育機関により支えられてきた。研究代表者は以前より高等専門教育に関心を持ち、工部大学校・東京帝国大学工科大学の教育課程に関する情報収集を進めてきた。一方これらの研究を通して、経済社会状況はもとより、旧制高等学校(高等学校)における工学基礎教育の重要性、美術教育との相関性を探る必要性を強く感じた。そこで本研究においては、第一高等学校などの旧制高等学校、東京美術学校、京都高等工芸学校などの専門教育機関との関連を複合的にみることで、どのような人材により、どのような教育がなされていたのか。何を身につけることが出来たのか。教育からみることで、当時共有されていた知識や技術が明らかになると考える。この視点は従来の個別研究では欠けていた部分であり、このことは、日本における建築教育学はもとより、さらには近代建築学、工学分野全体の大きな関心事項であると考えられる。

(2)研究の方法として、大きく以下の3点が挙げられる。

①書き記された講義録、ノート分析

既に所蔵が明らかになっている講義ノートを対象として、書き起しを行った上で、内容の分析を行う。

②現物資料の調査

実測図面、模写図、大工道具など当時作成された、もしくは使用した資料の調査を行い、実際に行われていた教育の実態を解明する。

③関連する他機関での教育内容の解明

各学校で毎年発行されていた『学校一覧』をもとに講義内容の復元作業を行い、その上で人的交流などを含め複合的にとらえ、当時の建築学の発展過程を総合的に描く。

2. 研究の進捗状況

(1)平成20年度

①本年度研究計画の作成

既存研究や資料所蔵機関の確認を行い、今年度の研究計画を再検討した。

②翻刻作業

東京帝国大学工科大学建築学科教授関野貞による講義ノートの翻刻作業を行い、内容の解明を進めた。

③文献調査

・工部大学校カレンダーや『帝国大学一覧』をもとに、工部大学校、工科大学の教育内容の再確認を行い、データベース作成を行った。

・『東京美術学校一覧』や年報をもとに、東京美術学校など美術教育専門機関における教育内容の分析、およびデータベース作成を行った。

④史料調査

・伊東忠太、関野貞、塚本靖らによる戦前期中国大陸の調査写真の整理、分析作業を行い、データベースを作成した。

・東京美術学校教授六角紫水史料の調査を行った。

・天理大学附属天理図書館にて東京美術学校図案科教授である小場恒吉の調査ノート、野帳類の史料調査を行った。

(2)平成 21 年度

①本年度研究計画の作成

昨年度実績を踏まえ、今年度の研究計画を再検討した。

②翻刻作業

東京帝国大学工科大学建築学科教授伊東忠太による講義ノートの翻刻作業を行い、内容の解明を進めた。

③実測図面の整理分析

工科大学建築学科において明治期～昭和初期に講義の一環で行われた実測調査図面の内容の分析を進めた。

④装飾模写図の整理分析

③同様、工科大学建築学科において明治期～昭和初期に講義の一環で行われた建築装飾の模写図の電子化を行い、内容の分析を進めた。

⑤史料調査

・東京大学教養学部駒場博物館において、旧第一高等学校所蔵の図学教材の調査を行った。

・秋田県赤レンガ郷土館にて東京美術学校図案科教授である小場恒吉の学生時代のノート、美術学校での講義資料などの史料調査を行った。

・旧工部美術学校所蔵史料のうち、石膏像に関して旧備品台帳の分析を行い、現存石膏像との関係性に関する検討を進めた。

(3)平成 22 年度

①本年度研究計画の作成

昨年度実績を踏まえ、今年度の研究計画を再検討した。

②翻刻作業

東京芸術大学図書館所蔵の東京美術学校生徒講義録、昨年度調査を行った小場恒吉の講義録の翻刻作業を行った。

③図学教本の整理分析

第一高等中学校、工部美術学校、工部大学校などで使用されていたと考えられる図学教本の分析を行った。

④史料調査

・日銀金融研究所所蔵の長野宇平治史料の調査を行った。

・旧工部大学校所蔵史料のうち、輸入大工道具の調査を行った。

・旧備品台帳のうち、画手本、写真帳などの分析を行い、現存史料との照合、検討を進めた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進んでいる。

(理由)

当初計画よりも、講義ノートの翻刻等史料調査に時間がかかり、分析を十分に進めることができなかった。一方で大工道具など計画当初には想定をしていない資料が新たに発見された。これらの状況を踏まえ、適時研究

計画を修正、調整することで、研究活動を遂行している。以上より、おおむね順調に進んでいると考えることができる。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度である 23 年度は、昨年度までの成果を踏まえ、明治期の建築学教育における特徴的な領域を中心に、近似する学問分野との比較を通して、分析成果を論文などにまとめてゆく。

(1)全体構図の設定と位置付けの再検討

昨年度までの成果をもとに、全体構図を見直し、本研究の位置付けを再検討する

(2)補足調査

(1)により補足が必要であると判断された対象に関し、調査分析を行う

(3)建築学における図学教育に関する分析

本研究の主軸の一つとなる図学教育に関して、論文などにまとめ発表する

(4)建築学における工学基礎教育に関する分析

本研究の主軸の一つとなる工学基礎教育に関して、論文などにまとめ発表する

(5)全体の総括及びさらなる問題提起

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

角田真弓「工学系研究科建築学専攻所蔵旧備品台帳(二) 旧工部美術学校所蔵資料」『東京大学史紀要』29号, 2011. 3, pp. 67-86

角田真弓「工学系研究科建築学専攻所蔵旧備品台帳(一) 旧工部美術学校所蔵資料」『東京大学史紀要』28号, 2010. 3, pp. 65-83

角田真弓「明治期工学教育における図学教育の分析」『技術報告』, 査読無, 第 24 回東京大学工学部・工学系研究科技術発表会, 2009. 9, pp. 105-108

角田真弓「東京大学大学院関野貞資料」『すまいろん』査読無, 88号, 2008. 10, pp. 58-59

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 1 件)

関野貞研究会(藤井恵介、早乙女雅博、角田真弓、大西純子、吉川聡)編集『関野貞日記』中央公論美術出版, 2009. 2, 834pp.

[その他]

2010 年日本建築学会賞(業績)

「関野貞資料の調査・公開と東アジア建築文化財学への貢献に関する一連の業績」(藤井恵介、早乙女雅博、角田真弓)